

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	目白大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	メジロダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310102886
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	キャリア研修Ⅰ
	学部・研究科等名	心理学部、人間学部、社会学部、メディア学部、経営学部、外国語学部
	担当教職員名・役職	長崎 秀俊：教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	18
	受入企業等数	2
	受入企業等名	HRクラウド株式会社、株式会社スピードリンクジャパン
	インターンシップの分類	6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	障がいのある学生も参加可能
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	企業における課題解決ワークを実施している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位	
2-5.上記回答内容に関する詳細	学部2～3年次を対象。キャリア教育科目・選択科目として、休業期間中に実施し、2単位を付与する。	
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている

要素③		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
		5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	学生に対して、「ビノバージョンレポート」を行い、その結果を学生同士で共有しあい、他己理解に役立てている。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
		4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	今後の自分に合うインターンシップの選び方を伝え、今後の学生生活を有意義に過ごすように促している。 実施中に得た気付きや自信をもとに自己紹介を作り発表させ、自己理解に役立てている。
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている。学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている。成果発表会を行い、プレゼンテーションを実施し、自身の学びを他の学生と共有している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	教職員が適宜ワークショップに参加し、学生の心身の様子を見守り、不良のものには休み時間に声掛けを行っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細		

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前2日+実施2.5日+中間学習0.5日+実施2日+事後1日+成果発表会1日
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	2社で実施。1社は2～2.5日
5-2.「4.その他」の実施期間の内容	1社目と2社目の間に中間学習を行い、自身が事前学習で立てた目標に対する到達度を確認し、再度の目標設定の日を半日設定している。	
5-3.上記回答内容に関する詳細	事前2日+実施は2社で、1社は2～2.5日+中間学習0.5日+事後1日+成果発表会1日の計9日の実施とし、日々の報告書は対象の学生が参加しているポータルサイトにアップし、お互いが確認できる仕組みを作っている。また、1社目と2社目の間に中間学習と位置づけた振り返り、再度の目標設定の日を半日設定している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	学生に対して、実施目的のすり合わせのためのプログラム説明会を実施。
6-3.上記回答内容に関する詳細	企業担当者も協力してプログラムを設計、事前・事後学習にも参画し学生の資質を把握したうえで、目標達成に導くために必要な支援を行っている。また、学生に対して、実施目的のすり合わせのためのプログラム説明会を実施。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://pwb.mejiro.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/URL/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=31732&amp;P2=2021&amp;P3=20211001">https://pwb.mejiro.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/URL/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=31732&amp;P2=2021&amp;P3=20211001</a>	
問い合わせ	大学等名	目白大学
	担当部署名	就職支援部
	担当者役職名	就職支援部長
	担当者氏名	鈴木 あ久利

せ 先	電話番号	03-5996-3124
	メールアドレス	<a href="mailto:colshinro@mejiro.ac.jp">colshinro@mejiro.ac.jp</a>